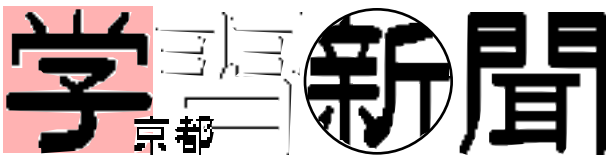


Enseigner c'est dire espérance étudier fidélité

ルイ・アラゴン「ストラスブール大学の歌」から



2014 02 15 NO.357

発行：京都労働者学習協議会

〒602-8147

堀川丸太町西一筋目上ル「京都学習会館」内

(075)841-8141 Fax(075)821-3665

<http://kyoto-gakusyuu.jp/>



contents.....

03頁 今月の学習

第48回定期総会 開会あいさつ

01頁

09頁

08頁 - MARX ENGELSを直訳で学ぶ

11頁 川嶋みどり著『看護の力』を読む

007

カール・マルクス

機械設備は、それ自体として見れば労働時間を短縮するが資本主義的に使用されると労働時間を延長する。それ自体としては労働を軽減するが資本主義的に使用されるとその強度を高める。それ自体としては自然力に対する人間の勝利であるが資本主義的に使用されると自然力によって人間を抑圧する。それ自体としては生産者の富を増加させるが資本主義的に使用されると生産者を貧困化させる。」



764
11

時勢

とく

井ヶ田 良治
第135回

proactive

pacifism

NHK

NHK

NHK

NHK



2014/2/14

京都労働者学習協議会
第48回定期総会閉会あいさつ

京都労働者学習協議会
第48回定期総会スローガン

NPT

京都労働者学習協議会・第48回定期総会役員

◎印は新任です。

顧問 井ヶ田良治（同志社大学名誉教授）
林 紀（履谷大学名誉教授）
会長 芦田 文夫（立命館大学名誉教授）
副会長
鎌坂 典（関西大学名誉教授）
角田 修一（立命館大学教授）
河口 羅洋（京都教職員組合委員長）
池田 豊（京都自治労連委員長）
上瀬 真生（流通科学大学教授）
小林 聡（民青同盟京都府委員会委員長）
堀川 幸（履谷大学教授）
宮下 雅之（教育活動家）
前田 敦雄（福祉保育労京都地本）
牧野 広義（阪南大学教授）
山中 敏行（京建労副委員長）
滝井 隆名（履谷大学教授）

理事——若干名
大久保孝行（京建労書記次長）
小室 泰雄（NTT労働者）
辻 晶秀（京都批評副議長）
松本 理浩（京都医労連書記長）
山口 勤（労働学校講師）
永戸 崇夫（教育活動家）
山本第五郎（JM1U副委員長）

会計監査 1名
佐伯 重雄（商業企業組合）

事務局長 村岡 利明（京都学習協議専従）
事務局長 上野 哲平（福祉保育労）

常任理事——若干名

鎌田 知子（福祉保育労）
諸岡 利夫（大光印刷労組）
吉田 興行（白鷺業）
山口 加代（福祉保育労）
上野 広光（京都市職労書記）
村岡 秀二（福祉保育労）
松本 さつき（福祉保育労）
中久保 由理（福祉保育労）
石田 恒（京都市職労）
門脇 進（京都民医労）

【事務局】

事務局長 村岡 利明
次長 上野 哲平
事務局長 上野 広光
鎌田 知子
諸岡 利夫
山口 加代
吉田 興行

■特別会員一覧（労働者・教育活動家副会長をお願いしていた方々です。掲載きは退任時のものです。）

吉田平（自治労連顧問 京都学習協議理事長） 新井雄（教育活動家 京都学習協議副会長）
蛭田安政（国労京滋地本委員長 京都学習協議副会長） 中村好夫（京都自治労連副委員長・京都学習協議事務局長）
有田光雄（労働問題研究家・京都学習協議理事長） 小瀬吉雄（京建労委員長・京都学習協議副会長）
本庄孝夫（市教組副委員長・京都学習協議副会長） 河内一画（京都批評顧問・京都学習協議理事長）
加藤拓男（民青同盟京都府委員会委員長・京都学習協議副会長） 平井 勝（京都自治労連委員長・京都学習協議理事長）
木村康郎（国労京滋地区本部委員長・京都学習協議副会長） 舘見 敬夫（京都医労連委員長 京都学習協議副会長）
大平 勤（京都教職員組合委員長・京都学習協議副会長） 中村東輝子（福祉保育労副委員長 京都学習協議副会長）
深田 剛雄（国労京滋支部委員長・京都学習協議副会長） 中川 義文（教育活動家 京都学習協議副会長）
飯田 全（民青同盟京都府委員会委員長・京都学習協議副会長） 山本 正行（子どもを守る会 京都学習協議副会長）
長谷川 幹（民青同盟京都府委員会委員長・京都学習協議副会長） 藤本 雅夫（京都教職員組合委員長・京都学習協議副会長）
園 秀樹（国労京滋地区本部委員長・京都学習協議副会長） 藤井 舒之（教育活動家・京都学習協議副会長）
白石 日出文（京都医労連副委員長・京都学習協議副会長） 久米 弘子（弁護士） 北村 善義（京建労副委員長）
加藤 伸太郎（民青同盟京都府委員会委員長）

労働者たちの国際協会の開会の辞

1864 9 28

1848

1864

1850

50

0

1864 4 7

1863

443,955,000

1843

3

BY HISASI ISIDA

1864

2010

p 284

p 36



MARX ENGELSを直訳で学ぶ。英語版全集から BY HISASI ISIDA

Inaugural Address of the International Working Men ' s Association The First International

01

VOL.20

05-05

Workingmen:

It is a great fact that the misery of the working masses has not diminished from 1848 to 1864, and yet this period is unrivaled for the development of its industry and the growth of its commerce. In 1850 a moderate organ of the British middle class, of more than average information, predicted that if the exports and imports of England were to rise 50 per cent, English pauperism would sink to zero. Alas! On April 7, 1864, the Chancellor of the Exchequer delighted his parliamentary audience by the statement that the total import and export of England had grown in 1863

“to 443,955,000 pounds! That astonishing sum about three times the trade of the comparatively recent epoch of 1843!

“With all that, he was eloquent upon “poverty”.

“Think,” he exclaimed, “of those who are on the border of that region,” upon “wages... not increased”; upon “human life... in nine cases out of ten but a struggle of existence! “He did not speak of the people of Ireland, gradually replaced by machinery in the north and by sheepwalks in the south, though even the sheep in that unhappy country are decreasing, it is true, not at so rapid a rate as the men.

“He did not speak of the people of Ireland, gradually replaced by machinery in the north and by sheepwalks in the south, though even the sheep in that unhappy country are decreasing, it is true, not at so rapid a rate as the men. He did not repeat what then had been just betrayed by the highest representation of the upper ten thousand in a sudden fit of terror.

第180回

労働組合運動
アライカルト
市原 秀樹

JMU



sh



1391

『看護の力』



1971

134 2,

P142

1,

“ ”